

令和4年度 日本橋中学校 外部評価報告書

評価委員：岩田博委員長、高橋道義副委員長、喜多正隆委員、倉谷通孝委員、郷金二郎委員
報告書作成者：副校長 鹿倉美帆

評価時期 令和5年2月

1 重点目標の評価

重点目標1について

3年間の研究の成果として、有意義な話し合い活動により、「主体的、対話的、深い学び」となる授業展開が大きく推進された。生徒の約90%が「わかった」「できた」という実感をもてたことは、工夫された授業の成果と評価できる。一方で生徒、保護者の10%が否定的・否定との回答であり、授業についてこれられない生徒には、補習授業等、個別最適な取組を推進し、さらなる充実が求められる。

重点目標2について

3年間の研究の成果として、授業の中で、「主体的、対話的、深い学び」に結び付く話し合い活動が展開され、道徳の話し合い活動等の機会を通して、多様な価値や生命の大切さを考えさせる機会が増えており、多様な価値を考える取組が活発に行われるようになり、アンケート結果や普段の生徒の様子から「豊かな人間性」を感じ取ることができ、高く評価できる。また、新型コロナウイルス感染症が収束傾向にあり、ボランティア活動が活性化している様子が感じ取れる。今後は、より多様で自由な取り組みに期待をする。

重点目標3について

新型コロナウイルス感染症予防の制約のある中において、学習発表（運動の部）等の活動を、生徒たちの充実感が伴う形で実施することができ、良い結果であった。

「未来につなぐ生き方講演会」については、キャリア教育の一環として、取り組むべきであり、どのようなテーマであっても、生徒たちの実際の職業に繋がらなくとも、講師の「生き方の理念」が伝わる講演にしていける必要がある。今後は、「テーマ」より、講師の「生き方の理念」が伝わる内容を充実させていく必要がある。

2 今後の改善に向けた意見

3年間の研究成果が様々な場面で表れ、学校自体が活性化している様子がうかがえる。それらの研究の成果を生かし、学習においては、今後も日本橋中学校の「話し合い活動」モデルをベースにしながら、子どもたちが「わかった」「できた」の楽しさを感じながら、主体的に学び、問題解決する力を身に付けさせ、子供たちの「深い学び」につなげ、今後はそれを実際の学力の向上につなげていく必要がある。そのためには、90%の肯定・肯定的な意見で満足することなく、10%の否定・否定的な回答に注視し、授業についてこれられない生徒には、補習授業等、個別最適な取組を推進し、一人も取り残さないという意識を教師がもち、授業や様々な活動に取り組む必要がある。学習以外にも概ね充実感を感じている生徒が多く、学校全体、先生方の取組の成果を感じる。だが、少数ではあるが、否定・否定的な意見もきちんと受け止め、学校行事や様々な活動の場面で、生徒の一人一人の努力を認め、一人一人の意欲を高める接し方を今後も目指して欲しいと思う。生徒一人一人の3年間を見通し、キャリア教育、学力、豊かな人間性の高まりを目指し、社会の未来の担い手としての教育の展開を期待する。

3 その他の意見

- ・進路先一覧などの進路実績も資料として提供し、外部評価委員会で評価していきたい。
- ・「学校評価アンケート」がよくまとめられていた。
- ・「サブリノートについて」
家庭・生徒・学校のつながりを増やす重要なツールであるため、今一度保護者にその重要性をアピールし、活用を促し、教育の有意義な展開につながる点を再確認していきたい。
- ・「研究発表会について」
大変成果の大きい取組であり、先生方のご努力を大変感じた。他校の教員との活発なディスカッションが大変良かった。参加した教員が有意義なものとなった発表会であった。